

令和6年度 普及活動成果集



ナシ品種「玉水」のせん定講習会を行う普及指導員と講習を受ける生産者

福岡県朝倉農林事務所
朝倉普及指導センター

はじめに

令和6年度の朝倉地域は、平成29年7月九州北部豪雨災害や令和5年度梅雨前線豪雨のような大きな被害は受けなかったものの、梅雨明けから秋にかけての異常高温・少雨の影響により、果樹を中心に品質低下や収量減といった被害が発生しました。

一方、平成29年7月災で甚大な被害を受けた朝倉市の中山間地域での農地の復旧は進んできており、徐々にではありますが作付け可能な水田が増えつつあります。

農業を取り巻く環境は、担い手の減少や高齢化、気象変動など依然として厳しい状況にあり、さらに国際情勢の影響により、燃油・肥料・飼料等の資材価格が高騰し、農業経営が圧迫される状況となっております。

こうした中、当センターでは、「人を育て 未来を創ろう 新しいあさくら農業」をスローガンに、農業所得の向上、担い手の育成・確保、新技術・新品種の導入等現地での課題解決に向けた普及指導活動を、生産者や関係機関・団体の皆様と連携しながら取り組んで参りました。

本冊子は、令和6年度の活動の成果やトピックスをとりまとめたものです。すべてを網羅することはできませんが、成果が得られたものや特徴的な現場の動きを掲載しています。今後の営農に参考となれば幸いです。

当センターは、引き続き、災害復興支援、新規就農者の育成・確保、担い手の経営力強化に取り組むとともに、新しい課題にも真摯に向き合い、朝倉地域の農業・農村の活性化と発展に向けて職員一同尽力していきたいと思っております。今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和7年3月

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター長 砥綿 査一

目 次

1 普及活動の成果

- (1) 産地で育てる朝倉地域農業の担い手 1
- (2) 地域ぐるみで支える中山間農業 3
- (3) 女性農業者の経営参画 5
- (4) 持続可能な地域水田農業を目指して 6
- (5) イチゴの収量向上と担い手の技術習得による産地の維持強化 7
- (6) 鉢物リンドウの新品種育成支援 8
- (7) 「玉水」の生産拡大と主力品種の生産力強化によるナシ産地の振興 9
- (8) 黒毛和牛繁殖雌牛牛群強化の取組み 10

2 トピックス（注目の活動・技術・表彰紹介）

- (1) 朝倉地域「新規就農者のつどい」を開催 11
- (2) 種子処理殺菌剤による大豆の収量向上 11
- (3) アスパラガスの省力施肥技術を実証中 12
- (4) 乳質改善のための講習会を開催 12
- (5) 福岡県青年農業者会議において平田英輝氏が優秀賞を受賞 13
- (6) 福岡県大豆作経営改善共進会において
 - (農) 大角ファームが最優秀賞、 \times 野安男氏が優良賞を受賞 13
- (7) 福岡県麦作共励会において堤善幸氏が優良賞を受賞 14
- (8) 福岡県アスパラガス生産振興共励会において森部博幸氏が最優秀賞を受賞 14
- (9) 福岡県花き品評会において(有)白鳥園が九州農政局長賞を受賞 15
- (10) 福岡県農林水産まつりにて関屋純男氏が農林水産賞優秀賞を受賞 15
- (11) 福岡県肉畜共進会において朝倉市の生産者4名が受賞 16
- (12) 福岡県茶業共進会褒賞授与式において手島博行氏が茶業功労賞を受賞 16

3 参考資料

- (1) 令和6年の気象概況および生産概況 17
- (2) 令和6年度主な展示ほの概要 20
- (3) 令和6年度普及指導センター活動情報一覧 21
- (4) 普及指導センターの活動体制（令和6年度） 23

1 普及活動の成果

1 産地で育てる朝倉地域農業の担い手

実施期間：令和6年度～令和8年度

朝倉地域は果樹や施設園芸の産地ですが、管内生産者の高齢化や担い手不足により、栽培面積や販売金額が減少しています。各生産部会では園地流動化や新品種の導入等の対策に取り組んでいますが、新規就農者などの担い手の確保についての取り組みはあまり進んでいません。そこで、研修生受け入れ体制の強化や新規就農者の確保対策、部会を中心とした新規就農者の育成等、生産部会と関係機関が連携して研修から就農までを一貫して支援する仕組みを作ります。

対象の概況

仕組みづくり対象のJA部会※1	なし部会	50名 (49.0ha)
	いちご部会	23名 (4.5ha)
	杷木いちご部会	14名 (2.3ha)
新規就農関係	就農相談者	28件
	農業研修生数	6名
	新規就農者数※2	37経営体

※1 部会人数および面積はR5年度時点の値

※2 R1年～R5年に青年等就農計画を作成した経営体数

活動の内容

(1)生産部会による新規就農者育成の仕組みづくり

なし部会では、荷原梨団地をモデル地区として生産者に聞き取りを行い、産地の現状を把握してもらう取り組みを行いました。また、和歌山県へ先進地視察を行い、産地と一体化した新規就農の取り組み手法を学びました。

いちご部会では、現状把握の目的を説明し、意向調査を実施し産地課題の共有を行いました。課題については将来を担う若手生産者が主体になって検討することとし、新規就農者への個別聞き取り結果と併せて検討を行いました。

(2)新規就農者の確保

関係機関と連携し就農相談会を行い、朝倉地域で就農を希望する方や農業研修生を募りました。また、就農希望者には青年等就農計画の作成支援を行いました。農業研修生に対しては講座や研修を通して就農支援を行いました。

(3)新規就農者の育成

就農1、2年目および農業研修生を対象に新規就農者のつどいを開催しました。つどいでは労務管理に関する研修会、若手先輩農家との意見交換会を行い、就農に対する悩み等にアドバイスを頂きました。

また、就農5年目までの新規就農者に対しては重点的にフォローアップを行いました。



新規就農者のつどいでの意見交換会

成果

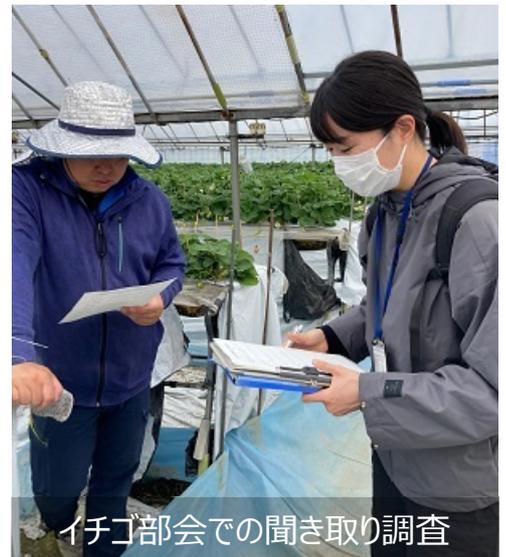
(1)生産部会による新規就農者育成の仕組みづくり

○なし部会の取り組み

聞き取り結果をまとめ、団地の生産者全員との共有に向けた地図を作りました。先進地事例調査によって、JA担当者との今後の進め方について認識の共有ができました。

○いちご部会の取り組み

部会全員が集まる講習会の場で活動の目的を説明し、合意を得た上で行った現状把握の結果を総会時に共有しました。併せて新規就農者に就農前後に苦労した点やより良い受入体制への意見を聞き取りました。



いちご部会での聞き取り調査

(2)新規就農者の確保

就農相談会を通して、農業研修生を募ったところ、来年度の農業研修生への応募者が7名となりました。

令和6年度に青年等就農計画を作成した認定新規就農者は、7経営体となりました。

(3)新規就農者の育成

今年5年目を迎える新規就農者7名のうち、2名が就農当初に立てた青年等就農計画の目標売上を上回り、3名が概ね8割の売上を達成しました。



研修生への講座の様子



研修生への剪定指導

今後の取り組み

なし部会では、荷原梨団地の生産者全員に対して新規就農者育成に関する仕組みについて提案し、合意形成を図ります。また、いちご部会では、若手による検討結果を部会全員で共有し、他産地の事例調査も行いながら、引き続き検討を重ねていきます。

生産部会と連携した研修から就農までの一貫した新規就農の仕組みを作ることで、研修後スムーズに就農へと繋げることが可能となります。この仕組みを構築し、より多くの就農希望者が朝倉地区での就農に魅力を感じられるように条件整備を進めます。

産地の維持・拡大のためには、担い手の受け入れ、定着、早期の経営安定が必須となります。引き続き、関係機関と連携し、新規就農者の早期経営安定に向けて支援します。

2 地域ぐるみで支える中山間農業 (H29九州北部豪雨農業災害復興プロジェクト第3期)

実施期間：令和6年度～令和8年度

朝倉地域は平成29年7月九州北部豪雨災害により甚大な被害を受けました。当センターでは、平成30年から2期6年にわたり重点プロジェクトとして朝倉地域の復旧・復興を目的に、中山間地における「営農ビジョン」の作成や複合経営による被災農家の経営再建を支援してきました。

第3期では、これまでの活動で作成した「営農ビジョン」の実現を目的として、黒川と松末を重点支援地区に選定し、将来にわたって持続的に営農ができる中山間モデルの育成に取り組みました。

対象の概況

朝倉市河川流域区画整理型復旧事業地区 6河川 13換地区 185ha

(R6年度)

重点支援地区	対象組織
黒川地区 (46.6ha)	一般社団法人くろがわ (正会員59名)
松末地区 (94.0ha)	松末コミュニティ協議会営農検討部会「チームますえ」 (委員・事務局計19名)

活動の内容

(1)地域農地を担う組織の設立

農地を担う組織の設立を支援するため、朝倉地域担い手・産地育成協議会復興プロジェクト朝倉市班を開催し、関係機関の情報共有をすすめました。

(2)ロードマップ(行動計画)の作成と実践

黒川地区では、一般社団法人くろがわ(以下「一社くろがわ」)の役員会に参画し、組織の運営を支援しました。

松末地区では、農地を守る組織の設立に向け「チームますえ」の活動を支援しました。

(3)新規品目・新技術の導入

令和6年3月に切り枝と雑草抑制シートの展示ほを設置しました。

また、一社くろがわで水稻新品種「恵つくし」の栽培が開始され、栽培管理支援を行いました。



チームますえの活動の様子

成果

(1)地域農地を担う組織の設立

黒川地区では、一社くろがわの経営改善計画の策定を支援し、一社くろがわが認定農業者となりました。これにより、一社くろがわは5年後の経営面積や所得の目標を立て、R6年度は水稲60a、保全管理170aの農地を管理しました。

(2)ロードマップの作成と実践

○黒川地区

一社くろがわで開催された役員会(10回)を支援し、経営改善計画、総会資料を基に役員会で協議を重ね、今後5年間のロードマップを作成しました。

○松末地区

地権者に対する説明会を開催し、地域を守る組織の設立に向けた機運が高まりました。

「チームますえ」で開催された役員会や全体会(合計11回)を支援し、「チーム松末」が地域を守る組織の設立に向けたロードマップを作成しました。

(3)新規品目・新技術の導入

黒川地区では、一社くろがわが県育成の水稲新品種「恵つくし」を栽培し、ブランド米「高木の米」として、直接販売したほか、ふるさと納税の返礼品として取り扱いが開始されました。

雑草抑制シート展示ほについては、抑草効果を確認しました。

切り枝展示ほについては、定植1年目で、樹種ごとの適地性や獣害の有無を確認しました。



ブランド米「高木の米」



雑草抑制シート展示ほの様子

今後の取り組み

朝倉市農業の復興に向けて、関係機関と連携し以下の取り組みを進めます。

黒川地区では、一社くろがわの運営や作成したロードマップをもとに年度計画の実践を支援します。また、農地を守る組織の設立に向け地域の合意形成を支援します。

松末地区では、作成したロードマップをもとに年度計画の実践を支援します。また、組織設立に向けた地域全体の合意形成を支援します。

新規品目・新技術の導入を対象地区へ提案するため、今年度行った展示ほ(雑草抑制シート、切り枝)を継続して調査していきます。また、地域活動における除草作業の軽労化を目的とした緑肥作物の展示ほを設置します。

女性農業者の経営参画

実施期間：令和5年度～令和8年度

家族経営の多い朝倉地域の農業を支えていくためには、女性農業者が経営に積極的に参画し能力を発揮することが重要です。そこで、女性農業者を対象とした研修会の開催や、女性農業者支援事業の活用を支援することで、経営参画する女性農業者の増加に取り組みました。

対象の概況

女性農業者 (R6年度)

認定新規就農者	7名
女性農村アドバイザー	9名
認定農業者※	52経営体
女性農業者支援事業実施者	2経営体

※家族(夫など)が認定農業者の女性

活動の内容

(1)女性農業者の経営参画支援

認定農業者の共同申請や家族経営協定を周知するための研修会を行いました。

また、他の女性農業者の経営を学ぶための視察研修や、ブランディング、SNSの情報発信についての講座を開催しました。

(2)女性農業者支援事業の活用支援

女性が認定農業者となり、新品目を導入する際に活用できる県事業(女性認定農業者育成事業)の周知を行いました。

実施者に対しては経営改善計画の作成や新品目の栽培についての支援を行いました。



視察研修の様子

成果

(1)女性農業者の経営参画支援

新たに認定農業者となった女性農業者が2年間で8名増加しました。

・女性認定農業者数(R4:20名→R6:28名)



女性認定農業者数の推移

(2)女性農業者支援事業の活用支援

事業の周知や支援を行った結果、2名の女性農業者が事業を活用して機械や設備を整え、新品目の栽培を開始しました。

・女性認定農業者育成事業の実施者

2名(品目:アスパラガス、サツマイモ)



導入した機械を操作する女性農業者

今後の取り組み

引き続き研修会等を通して女性の経営参画を支援し、地域のリーダーとなる女性農業者を育成します。

4

地域振興課 水田農業係

持続可能な地域水田農業を目指して

実施期間：令和5年度～令和7年度

朝倉地域の水田農業は担い手の高齢化や減少といった課題があります。地域の水田が今後も持続的に活用されるよう、担い手である集落営農法人等への支援に取り組み始めました。

また、近年収量が低下している大豆の収量向上と安定生産を目指して、乾燥害対策や適期播種推進等を行いました。

対象の概況

(R4年度)

	朝倉市	筑前町	東峰村
集落営農法人等	10	1	1
集落営農組織 (任意組織)	17	34	6

大豆作付面積 1,217ha (R5年度)

活動の内容

(1)水田農業担い手の支援方針の検討

関係機関で構成する朝倉地域担い手・産地育成協議会の担い手部会と普通作部会が合同で、朝倉地域の水田農業担い手についての戦略会議を行いました。会議では、水田農業の課題と今後の支援方針についてグループ討議を行い、認識の共有化を図りました。

(2)「ふくよかまる」の安定生産

近年の大豆の収量低下要因(生育期間中の乾燥害)や、適期播種・乾燥害対策について講習会等で周知するとともに、部分浅耕一工程播種の実演会を開催するなど導入支援を行いました。



部分浅耕播種指導

成果

(1)水田農業担い手の支援方針の検討

戦略会議でのグループ討議では、法人等担い手組織の高齢化やオペレーター、草刈り、水路維持等の人員不足、耕作放棄地の増加等が提起されたことで、関係機関において5年後の水田農業が抱える課題の共有化が図られました。



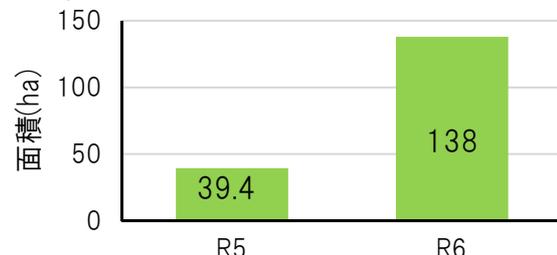
戦略会議でのグループ討議

(2)「ふくよかまる」の安定生産

令和6年産は生育前半の乾燥害により全体の収量は140kg/10aと少なくなりましたが、部分浅耕一工程播種ほ場では218kg/10aの収量を確保でき、乾燥害を回避できました。

・部分浅耕一工程播種実施面積

(R5:39.4ha → R6:138ha)



管内の部分浅耕一工程播種実施面積

今後の取り組み

引き続き、関係機関で水田農業担い手が抱える課題への対応策を検討すると共に、大豆の収量向上による農家所得向上を目指して支援を行っていきます。

イチゴの収量向上と担い手の技術習得による産地の維持強化

実施期間：令和6年度～令和8年度

朝倉管内のイチゴ生産者は普通作や果樹との複合経営が多く、適期管理不足による収量低下が課題となっています。また、生産者の高齢化が進んでいるものの、直近3年は新規就農者が増加傾向にあり、若手生産者の栽培技術向上を図る必要があります。そこで、適正管理の徹底による収量向上および産地を担う若手生産者の育成を行うことで、イチゴ産地の維持強化を図りました。

対象の概況

JA筑前あさくらいちご部会(三輪地区)
JA筑前あさくら杷木いちご部会(杷木地区)
(R5年産)

栽培面積	7.3ha
生産者数	37戸
うち若手生産者数	16戸

活動の内容

(1)適正管理の徹底による収量向上

生産者の技術向上のため、講習会や巡回指導を実施し、栽培管理に関する定期的な情報提供を行いました。また、高収量者と平均収量者の栽培管理を比較し、高収量のポイントについて検討を行いました。

(2)若手生産者の育成

若手生産者の技術課題を把握するため、聞き取り用紙を作成し、個別相談会で次作に向けた課題を設定しました。併せて各個人の設定した課題を解決するため、若手生産者のほ場にICT機器を設置し、ハウス内環境を把握できるように活動しました。また、対象を若手に絞った勉強会や試験研究機関の視察会を開催する等、イチゴの生理生態やICT機器の活用方法についての基礎知識を習得する機会を設けました。



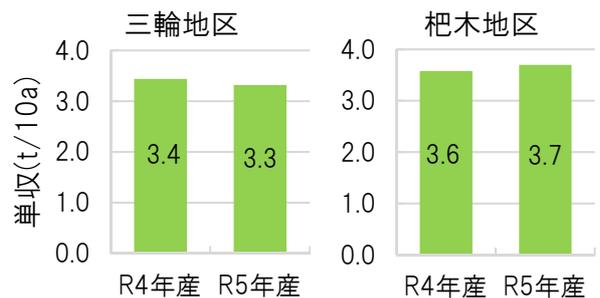
若手生産者へ個別指導

成果

(1)適正管理の徹底による収量向上

定期的な講習会や現地巡回指導と情報提供、調査結果の共有を行い、育苗期および本ば期の適正管理を推進したことで、若干の管理不足がみられたものの、収量を維持することができました。

・平均単収(t/10a)



※R4年産：R4年11月～R5年6月まで
R5年産：R5年11月～R6年6月まで
R6年産：R6年11月～R7年6月まで（調査中）

(2)若手生産者の育成

若手生産者が自らの課題を把握することで、意識の変革が図られました。生産者側から勉強会のテーマについて要望される場面が増え、ICT活用に関する視察研修が自発的に開催されました。

今後の取り組み

高収量者と平均収量者の管理の違いを講習会等を通じて周知し、管理の徹底を図ります。また、令和6年産終了後、個別相談会で各若手生産者の課題の達成状況について振り返りを行います。

鉢物リンドウの新品種育成支援

実施期間：令和5年度～令和7年度

朝倉地域は、県内唯一の鉢物リンドウ産地です。JA筑前あさくら鉢花部会リンドウ研究会では、生産だけでなく、育種にも取り組んでいます。産地ブランドの保守を目的として、より市場価値の高いオリジナル品種の育成を目指しています。そこで、新品種の登録や、新たな育種法への挑戦などの生産者の取り組みを支援しました。

対象の概況

JA筑前あさくら 鉢花部会 リンドウ研究会
(R6年度)

生産者数	8戸
栽培面積	110a
生産量	74,000鉢

活動の内容

(1)新品種の登録及び栽培の支援

リンドウ研究会が育成を行った系統について品種登録出願に必要な形質調査や書類作成に関する支援を行いました。

また、育成品種の栽培技術確立を目的として栽培マニュアルを作成しました。

(2)新たな育種法への挑戦を支援

これまで交配育種に取り組んでいたリンドウ研究会が、新たに人為突然変異育種に挑戦することになりました。そこで、九州シンクロトロン光研究センター(佐賀県鳥栖市)を利用する提案を行い、同センターへ提出する課題申請書類の作成や照射実験方法の検討を支援しました。



シンクロトロン光照射の様子

成果

(1)新品種の登録及び栽培の支援

令和6年に「心美雅(ここみみやび)」が、農林水産省の厳密な審査の結果、正式に品種として登録されました(登録番号30177号)。

また、かねてより育成していた有望系統「心美零(ここみれい)」についても令和6年2月に出願申請が行われました。



登録された新品種「心美雅」

(2)新たな育種法への挑戦を支援

令和6年2月にシンクロトロン光研究センターに課題が採択され、同年3月にリンドウ研究会が保有する品種へシンクロトロン光のトライアル照射が実現しました。その後、照射株を開花まで管理した結果、花色の変異が確認されました。

今後の取り組み

新品種の栽培技術の確立や、より変異が発生しやすい手法の探索などの支援を継続し、産地ブランド力の強化と産地の活性化を目指します。

「玉水」の生産拡大と主力品種の生産力強化によるナシ産地の振興

実施期間：令和4年度～令和6年度

ナシの県育成品種「玉水」は令和4年度から販売が開始されています。7月下旬から出荷され、食味が良好なため、消費者から高く評価されている一方で、小玉の割合が高いという課題があります。また、部会の主力品種である「幸水」や「豊水」は、老木や病害の発生により生産量が安定せず、単収低下が課題となっています。そこで、「玉水」の大玉果実の生産拡大とともに、産地の生産力強化を図りました。

対象の概況

JA筑前あさくら 梨部会

(R5年度)

生産者数	50戸
うち「玉水」苗木導入者数	43戸
うち省力樹形※導入者数	26戸
梨研究会員	11名

※省力樹形とは、ジョイント整枝や二本主枝一文字整枝等、作業動線が単純化された樹形。

活動の内容

(1)「玉水」の生産拡大

関係機関と連携して、適正着果量や新梢管理に関する実証ほを設置し、大玉で高糖度の果実を生産するための技術確立に取り組みました。また、実証ほで得られデータを講習会や園地査察会等で示し、生産者が早期に技術を習得できるよう図りました。



梨研究会員による「玉水」の園地査察

(2)主力品種の生産力強化

老木の改植による生産量の安定化に向け、先進地視察等を通じて、より生産性の高い省力樹形の導入を図りました。また、病害対策の展示ほを設置し、黒星病に対する新規薬剤の導入や、炭疽病に対する新たな防除体系を確立し、病害によるロスの軽減に努めました。

成果

(1)「玉水」の生産拡大

「玉水」の生産技術が向上したことで、集荷量は順調に増加しました。また、大玉で高糖度の果実の割合も増えつつあります。

・集荷量

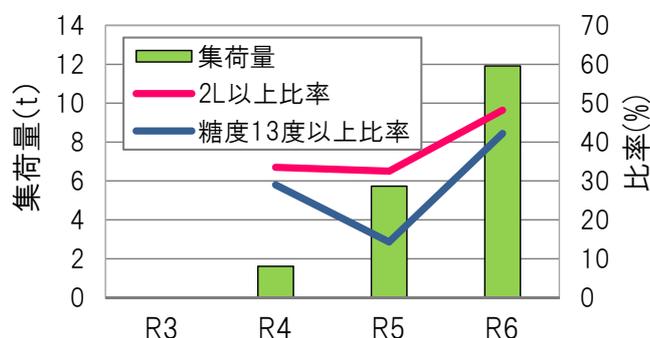
(R3: - → R6:11.9t)

・2L(310g~)以上比率

(R3: - → R6:48.2%)

・糖度13度以上比率

(R3: - → R6:42.2%)



(2)主力品種の生産力強化

省力樹形導入面積は規模縮小や離農により減少しましたが、新規に2.2ha導入されたことで、現状維持することが出来ました。また、病害に対する防除技術は一定の普及が進んだものの、単収向上までは至りませんでした。

・省力樹形導入面積(ha)

(R3:13.3 → R6:13.2)

今後の取り組み

「玉水」は、引き続き、更なる技術の向上に努めていきます。主力品種については、省力樹形への改植を軸に、生産基盤の安定化による生産力強化を支援していきます。

黒毛和牛繁殖雌牛牛群強化の取組み

実施期間：令和4年度～令和6年度

久留米地域和牛改良組合は、H30年4月に(公社)全国和牛登録協会から和牛改良組合として承認され、久留米普及指導センターは組合事務局として優良種雄牛を活用する等して和牛繁殖雌牛牛群の改良を推進してきました。

特に、母牛の能力が一定水準以上とされる「本原登録」牛や、更に実績が加味される「高等登録」牛の頭数増を目標とし、登録に向け発育強化を図りました。

対象の概況

久留米地域和牛改良組合組合員 15戸

成	牛	396頭
育	成 牛	115頭
肥	育 牛	418頭

※頭数はR6.2.1県畜産課調べ

活動の内容

(1)牛群構成の強化

ゲノミック評価等の結果や発育調査を基に個別指導を行い、飼養管理技術の向上を図るとともに、牛群構成強化のための講習会を開催しました。



牛群構成強化のための講習会

(2)共進会への出品支援

出品牛発育強化のための調教や手入れ方法について個別支援するとともに、出品者農場相互巡回を開催しました。



共進会出品者農場相互巡回

成果

(1)牛群構成の強化

繁殖雌牛の順調な発育が促され、本原登録頭数及び高等登録頭数が増加しました。

・本原登録頭数

(R3:39頭 → R6:83頭)(累計)

年度	R3	R4	R5	R6
頭数	39	57	71	83

・高等登録頭数

(R3:4頭 → R6:11頭)(累計)

年度	R3	R4	R5	R6
頭数	4	4	9	11

(2)共進会への出品支援

今年度の福岡県肉用種牛共進会※への出品予定総数のうち、支援対象組合からの出品は約半数を占めました。

※家畜伝染病の流行に伴い開催中止

今後の取組み

家畜伝染病の早期鎮静化を第一に、出荷自粛により受けた諸影響への対応支援を行います。

家畜伝染病に伴う情勢の見通しが見えない中でも、先を見据えた活動として、引き続きゲノミック評価を活用し、効率的な牛群改良を推進します。

2 トピックス(注目の活動・技術・表彰農家の紹介)

1 朝倉地域「新規就農者のつどい」を開催

地域振興課 地域係

朝倉地域では、毎年10名程度が新規就農者として農業経営を開始しています。関係機関で組織する朝倉地域担い手・産地育成協議会では、就農後の早期経営確立や円滑な就農を図るため、就農1年目、2年目および農業研修生を対象に、毎年「新規就農者のつどい」を開催しています。

今年は、社会保険労務士である中村雅和氏を講師として、労災保険を中心に人を雇った際のリスクや自分自身のための特別加入制度について研修会を行いました。その後、新規就農者や就農予定者の悩みや課題について、青年農業士をはじめとした先輩農家と意見交換を行いました。

イチゴや果樹といった品目ごとに4グループに分かれ意見交換を行い、参加者がそれぞれの品目に応じた悩みを相談し、先輩農家からの的確な意見やアドバイスを頂いていました。



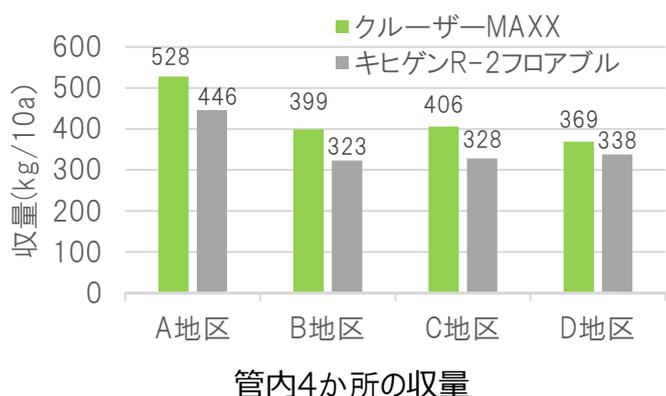
2 種子処理殺菌剤による大豆の収量向上

地域振興課 水田農業係

管内では大豆の増収対策として、適期播種を推進しています。梅雨の合間での播種となるため、播種直後の降雨による苗立ち不良が懸念されます。その予防として種子処理殺菌剤「クルーザーMAXX」の効果を、管内4か所の展示ほにて確認しました。

クルーザーMAXXは慣行の種子処理剤キヒゲンR-2フロアブルと比較し、収量は19%増加しました。これは、クルーザーMAXXの処理によって、土壌病原菌の感染を予防し、苗立ちの安定、根の発達促進等の効果によるものと考えられます。

また、コスト面でも、クルーザーMAXXとキヒゲンR-2フロアブルの価格差はわずかであり、その差額は大豆4.2kg/10aの増収によってカバーできます。これらのことから、梅雨明け前の適期播種には、種子処理殺菌剤クルーザーMAXXの処理が有効であると考えられます。

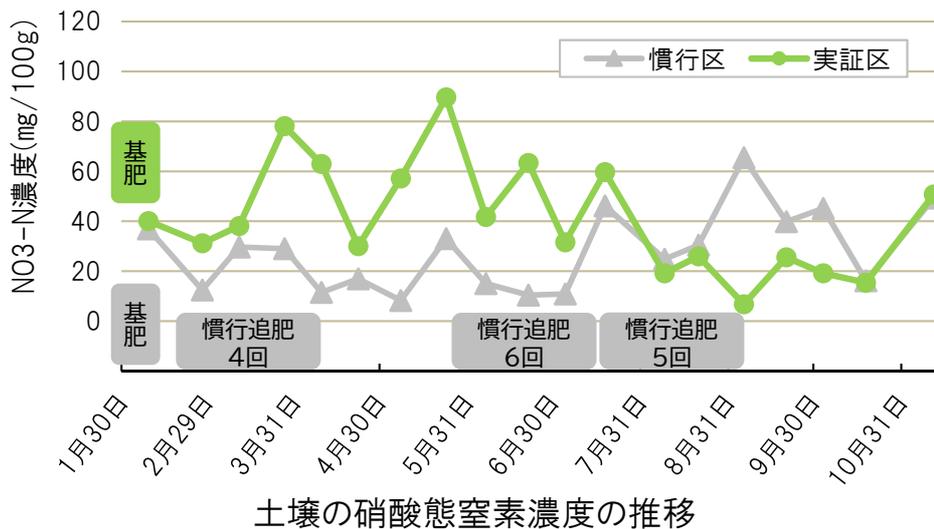


3 アスパラガスの省力施肥技術を実証中

園芸課 野菜係

アスパラガスの収穫期間は2月から10月まで長期にわたるため、肥培管理を長期間、継続的に行う必要があります。そこで、アスパラガス栽培用に試作された緩効性被覆肥料の実用性について検討しています。

今年度の実証では、定期的な土壌分析の結果、夏季までの肥効安定が確認できました。また、慣行施肥の追肥作業全15回が削減できたため、10a当たりのべ40時間の省力化が図れました。一方、夏季以降の収量性がやや劣る現象が認められたため、2年目は秋季に追加で施肥する体系について検証を行う予定です。



4 乳質改善のための講習会を開催

久留米普及指導センター 果樹畜産課 畜産係

乳質改善は酪農経営にとって永遠のテーマとされる課題です。しかし、朝夕の搾乳時間はいずれの農場も同じなため、酪農家は、他の農場ではどのような搾乳衛生に取り組んでいるか判らない状況でした。そこで、ふくおか県酪協久留米支所青年部員の農場で搾乳立会を行い、搾乳手順や重視している点を調査し、その結果をもとに部員を対象とした講習会を開催しました。ここでは調査報告に加え、乳質優良な部員が搾乳手法を動画を用いて自ら解説、部員同士で活発な意見交換が行われたことで、乳質改善に対する意識向上が図られました。

今後は、引き続き乳質改善にむけて講習会の開催や個別巡回指導を行い、若手酪農家の基礎技術研鑽を行います。



5 令和6年度福岡県青年農業者会議において 平田英輝氏（筑前町）が優秀賞を受賞

令和6年12月23日に開催された令和6年度福岡県青年農業者会議の「プロジェクト発表の部」において、あさくら地域4Hクラブの平田英輝氏（筑前町）が優秀賞を受賞されました。

あさくら地域4Hクラブは自身の経営状況を把握するため、令和5年度から「経営に関する勉強会」に取り組んできました。2年目となった令和6年度は勉強した手法を用いて各自が決算書分析を行いました。

今回の発表では、クラブの勉強会の取組内容、平田氏の家族経営の分析結果と今後の課題を紹介しました。審査においては、クラブ員が自ら経営について学び、分析によって目標を明確にしている点が高く評価されました。

なお、平田氏は令和7年度に熊本県で開催される九州・沖縄地区青年農業者会議に福岡県代表として出場されます。



6 令和5年度福岡県大豆作経営改善共進会において （農）大角ファーム（朝倉市）が最優秀賞 ♨野安男氏（筑前町）が優良賞を受賞

令和6年10月28日に令和5年度福岡県大豆作経営改善共進会の表彰式が行われ、朝倉市の農事組合法人あさくら大角ファームが集団の部で最優秀賞を、筑前町の♨野安男氏が農家の部で優良賞を受賞されました。

農事組合法人あさくら大角ファームは、種子を含めて大豆「ふくよかまる」を7.7ha作付けしています。播種前の明渠施工による排水対策の徹底と、全面積を部分浅耕一工程播種することで適期播種と湿害・乾燥害対策を行い、301kg/10a（県平均対比168%）という高収量を実現したことが高く評価されました。

♨野氏は、大豆生産の省力化を積極的に行った上で地域単収と比較して高収量を維持しており、地域の模範となる大豆生産を行っておられます。加えて、地域の生産組合で生産部門の地域リーダーを務める等、地域活動にも貢献されていることが高く評価されました。



7 令和6年度福岡県麦作共励会において 堤善幸氏（筑前町）が優良賞を受賞

令和6年10月28日に令和6年度福岡県麦作共励会の表彰式が行われ、朝倉市の堤善幸氏が優良賞を受賞されました。

堤氏は、筑前町三輪地区の中でも大面積を担う土地利用型個別大規模農家であり、地域の重要な担い手です。また、平成18年より採種事業に取り組み、種子生産者として、責任生産量の達成に向けた管理を徹底され、優良種子の安定供給により県産麦の生産振興に貢献されていることが高く評価されました。



8 令和6年度福岡県アスパラガス生産振興共励会において 森部博幸氏（朝倉市）が最優秀賞を受賞

令和6年12月11日に令和6年度福岡県アスパラガス生産振興共励会の表彰式が行われ、朝倉市の森部博幸氏が最高位である反当収量最優秀賞を受賞されました。

森部氏は、堆肥投入による土づくり、毎日のかん水管理、定期的な病害虫防除、夏場の徹底したハウス換気管理を励行されてきました。またアスパラガス栽培で最も重要な、次年度に向けた秋季の草勢維持と光合成量確保に高い意識を持って管理されています。同氏は前回の令和4年度共励会に引き続きの受賞で、連覇達成はこのような絶え間ない努力を毎年続けてきた賜物といえます。

なお今回の共励会では、朝倉市の久保敬博氏が反当収量優秀賞を、団体の部でJA筑前あさくらアスパラガス部会が総収量伸び率優秀部会賞を受賞しており、産地内での技術研鑽がますます楽しみです。

県アスパラガス生産振興共励



左からアスパラガス部会高良部会長、
森部博幸氏、久保敬博氏

9 令和6年度福岡県花き品評会において (有)白鳥園(朝倉市)が九州農政局長賞を受賞

令和6年11月22日、令和6年度福岡県花き品評会(産物の部)が、福岡市の福岡県花卉農業協同組合において行われ、朝倉市の(有)白鳥園(代表:和佐野礼子氏)が出品された胡蝶蘭「さくらひめ」が、鉢物部門では最高位となる九州農政局長賞を受賞されました。

和佐野氏の胡蝶蘭は、花や葉がとても美しく、花の並びも均一で、鉢の仕立ての仕方がその品種の良さをとても引き出していると高く評価され、今回の受賞となりました。

和佐野氏は、後継者である娘二人と協力し、今後も優れた品質の胡蝶蘭をお客様に届けていきたいと語られています。



受賞の胡蝶蘭と和佐野礼子さん

10 第24回福岡県農林水産まつりにおいて 関屋純男氏(朝倉市)が農林水産賞優秀賞を受賞

第24回福岡県農林水産まつりが11月2日に開催されました。農林水産業の発展に大きく貢献された方々の功績をたたえる表彰式において、朝倉市の果樹生産者の関屋純男氏が農林水産賞園芸部門優秀賞を受賞されました。

関屋氏は平成26年よりJA筑前あさくらかき部会の部会長を8年間にわたり務められました。平成29年の九州北部豪雨災害からの復興に向け、担い手・労力確保などを検討する「組織」、収量や品質向上に関する技術検討を行う「生産」、販促活動などを行う「販売」のチームに分かれて部会活動の発展・強化に向けた、カキ部会プロジェクトを立ち上げました。部会の先頭に立ち、産地の方向性を打ち出し、災害からの復興や農林水産業の発展に大きく貢献されたことが評価されました。



知事から表彰状を受け取る関屋氏

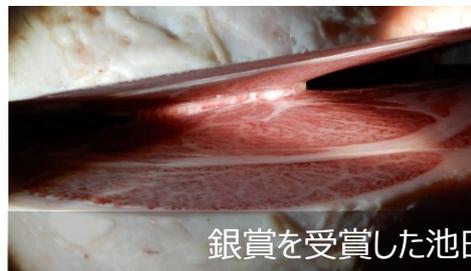
11 第60回福岡県肉畜共進会において 朝倉市の生産者4名が受賞

池田牧場、(株)堀内牧場、浦浩二氏、中村明子氏

令和6年10月3日、第60回福岡県肉畜共進会が太宰府市のJA全農ミートフーズ(株)にて開催されました。本共進会は年に一度、県内の畜産農家が肉畜の肥育技術の成果を競うもので、和牛の部において、JA筑前あさくら肥育牛部会員である池田牧場が銀賞、(株)堀内牧場、浦浩二氏が銅賞、国産牛の部(ホルスタイン種)において、中村明子氏が銀賞を受賞されました。

サシの入りを示すBMSナンバー最高値の12番との評価を得た牛が、和牛の部では全出品牛58頭のうち17頭というハイレベルな戦いとなりました。

銀賞を受賞した池田牧場の枝肉は、農林業総合試験場が作出した受精卵由来の朝倉生まれ朝倉育ちで、重量588.7kg、ロース芯面積117cm、バラ厚9.2cm、皮下脂肪厚1.4cm、BMS12番と総合的に優れていると評価され、今回の受賞となりました。



銀賞を受賞した池田牧場の枝肉



12 令和6年度福岡県茶業共進会褒賞授与式において 手島博行氏(朝倉市)が茶業功労賞を受賞

令和7年1月15日、令和6年度福岡県茶業共進会褒章授与式が行われ、朝倉市の手島博行氏が茶業功労賞を受賞されました。

手島氏は平成15年から家業である茶業に本格的に従事し、深耕機を活用した土づくりや綿密な肥料の調整を行うなどして栽培面積を就農時の1.5倍に拡大されるなど、朝倉地域を代表する茶農家です。

JA筑前あさくらお茶部会の部会長を10年以上勤め、朝倉地域の茶生産の振興のため、茶園の遮光ネットや防霜ファンの普及、老朽化した製茶ラインの改修に尽力され、地域の茶業振興に大きく寄与されました。

その功績が高く評価され、今回の受賞となりました。



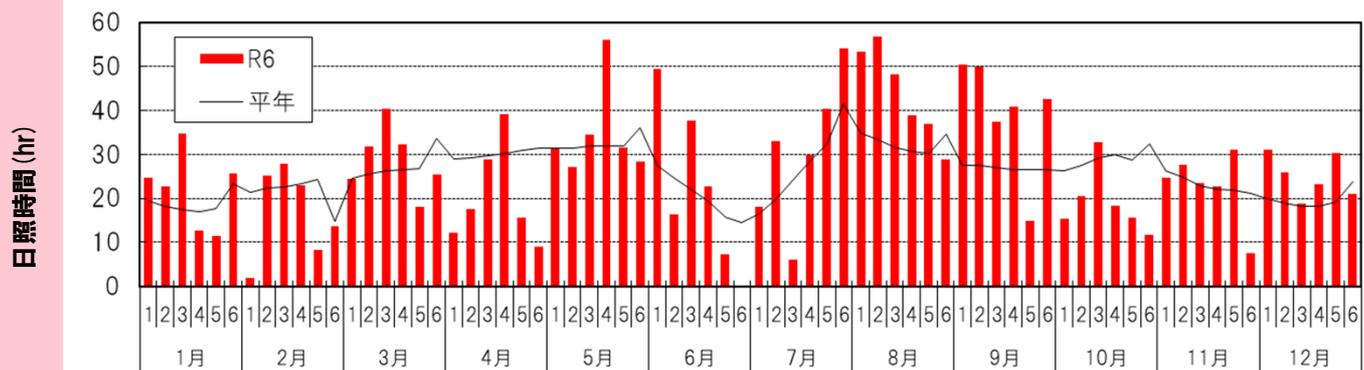
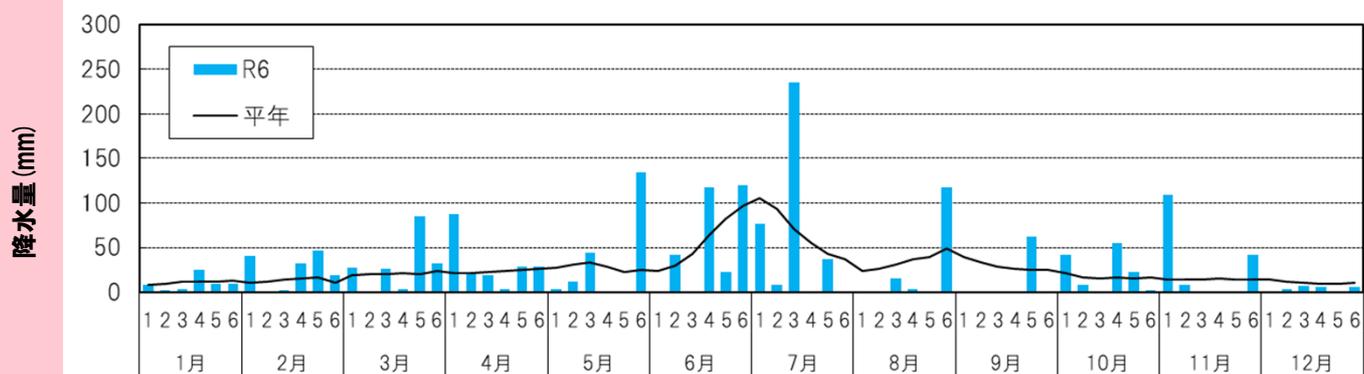
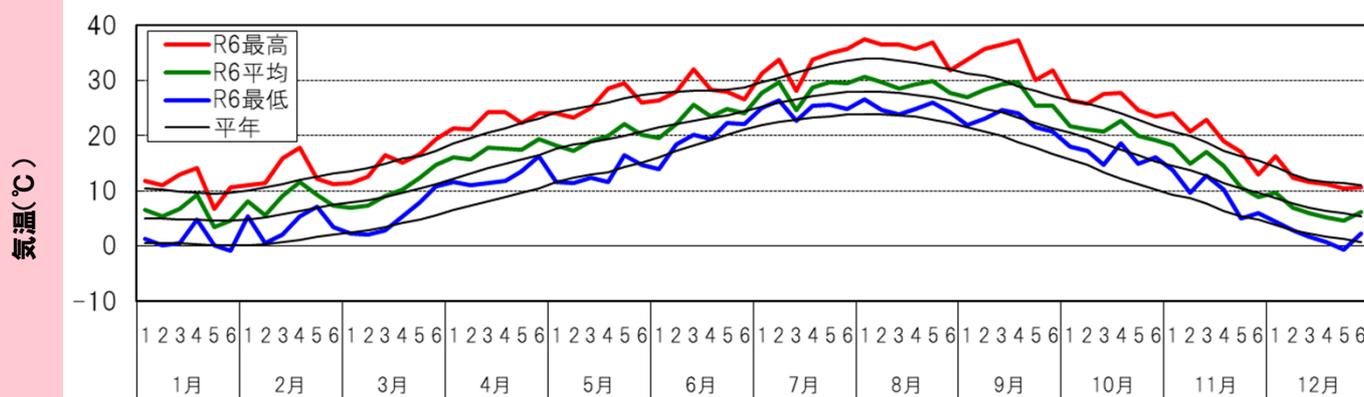
手島氏の受賞の様子

3 参考資料

(1) 令和6年の気象概況および生産概況

【年間概況】令和6年の管内の気象は、年平均気温は17.6℃(平年比110%)、年間降水量は1,920mm(平年比106%)、日照時間は1,950時間(平年比105%)であった(データ:朝倉アメダス)。

【月別概況】1月は最低気温が平年よりも低く推移した。2月の平均気温は平年より2.5℃、3月の平均気温は平年より0.8℃高かった。3月下旬から4月下旬まで日照時間が平年比69%と短かった。梅雨入りは6月17日頃(平年より13日遅い)であった。6月中旬から7月中旬にかけて降雨量が増加したが(24時間降水量:7/15に114.0mmを記録)、作物や施設・道路等への被害は少なかった(6月中旬～7月中旬の降水量は平年比94%)。梅雨明けは7月22日頃(平年より3日早い)であった。8月29～30日にかけては台風10号が接近し、日中に最大瞬間風速17.7mを記録した。その後は高温が続き、9月の最高気温の日平均は平年より4.8℃高く、10月は平年より1.6℃高かった。また、9～12月の降水量は平年比88%と少なかった。



グラフは朝倉アメダスの半旬データを元に作成

水稻・麦・大豆

令和6年産の麦は、播種は順調に進んだが、播種後降雨がなく出芽が遅れた。1月中旬以降から断続的に降雨があり、中間管理作業が遅れた。また、2月以降は多雨傾向により、湿害が発生した。生育期間を通じて高温多湿で推移したため、出穂期以降コムギ黄斑病の被害が拡大した。出穂期および成熟期は高温傾向で平年より7日程度早くなった。収量は平年より少なかった。

水稻は、田植えのピークは6月22～23日頃であった。田植え期以降の日照不足により、初期生育は軟弱徒長となり、莖数は少なく推移した。梅雨明け以降は高温多照で推移したため生育は回復し、出穂期は平年並み～やや早い傾向となった。6月13日から断続的にウンカ類の飛来が確認されたが、防除の徹底により被害はほとんどなかった。台風10号の強風の影響により、籾ずれ、汚損粒が発生し、特にヒノヒカリで被害が多かった。8月下旬～9月の高温傾向により成熟期は熟期の遅い品種ほど早くなった。収量は平年並みで、品質は登熟期の高温により白未熟粒がやや多かった。

大豆は、降雨により播種が遅れ、ピークは梅雨明け後の7月25日頃となった。その後、9月中旬まで高温・少雨によるほ場の乾燥により、生育抑制が発生し、莢数が減少した。ハスモンヨトウ、カメムシ類の発生が多く、一部ほ場で10月上旬に補正防除が行われた。台風10号の影響により、一部ほ場で不稔や落莢による青立ちが生じた。9月下旬以降の定期的な降雨により落葉が遅れ、成熟期は昨年よりも遅かった。収量は、莢数の減少により昨年より少なかった。品質は、一部に泥かみによる汚損粒や、カメムシによる被害粒が見られた。

野菜

青ネギでは、春先の曇天の影響により4～5月まで倒伏が多く収穫量が少なかった。その後の生育は安定していたが、梅雨明け後は異常高温と乾燥により発芽不良が発生し、その傾向は9月まで続いた。10月以降の発芽は改善したが、高夜温と日照不足により軟弱徒長気味の生育となった。病害虫については、5月にハモグリバエ類とアザミウマ類の発生が多く、6月にアザミウマ類、10月にハモグリバエ類とヨトウ類の被害が多かった。

令和5年産のイチゴは、令和5年7月の大雨による苗の根傷みや令和6年2～3月の日照不足による草勢の低下が課題となり、収量は前年対比97%にとどまった。

令和6年産は、ランナーの発生が春先の乾燥等の影響でやや遅れ、例年よりも遅い時期での切り離しとなった。育苗期は7～8月の高温・乾燥による生育停滞、根量不足が散見されたが、冷蔵処理苗では比較的順調に定植が進んだ。一方、普通促成苗は高温の影響で花芽分化が遅く、定植作業が遅れた。定植以降も高温傾向が続いたため、2番果房の花芽分化は例年に比べてやや遅く、1番果房は例年よりも小玉傾向での出荷となった。病害虫については、炭そ病による枯死株が定植後に多く発生し、ハスモンヨトウによる食害が10～11月に多く見られた。

アスパラガスでは、暖冬の影響で休眠覚醒が例年より遅く、保温開始を遅らせたため出荷開始も遅れた。春芽の出荷は2～4月の曇天傾向によりハウス内温度の確保ができず、例年と比べ少なかった。夏芽の出荷については、梅雨明け後から9月にかけて高温の影響により草勢が低下したため品質が低下し、収量が少なくなった。病害虫は、4月のアザミウマ類被害は少なかったが、夏季の高温乾燥でハダニ類やコナジラミ類の発生が多く、8月中旬以降はハスモンヨトウの発生が多く見られた。また、8月末の台風通過以降は斑点性病害の発生が増加した。

令和5年産のトマトは、育苗期の高温による萎れが見られたものの、10月中旬から下旬にかけて定植された。定植後は好天により、順調に生育したものの、12月以降寒波等による低温寡日照により、収穫の遅れや空洞果の発生により、収量は前年よりやや少なかった。病害虫は、年内にコナジラミ類が多く、12月以降の厳寒期を中心に灰色かび病が多発した。

令和5年産のナスは、令和5年9月上旬から下旬にかけて定植された。12月上旬まで好天で推移したものの、12月中旬以降は寒波等により低温寡日照により、樹勢が著しく低下した。1月以降も曇雨天が頻発し、同化養分不足と着果負担の増加により樹勢の回復が遅れ、大きな出荷ピークもなく推移した。病害虫は、高温乾燥であった10月にコナジラミ類、ホコリダニ類、ハスモンヨトウ等の害虫が多発した他、厳寒期の12月、1月には灰色かび病や黒枯病などの病気が多発した。

令和5年産のキュウリは、令和5年8月下旬から10月下旬にかけて定植された。10月、11月は気温が高く推移したものの夜温が低かったため、生育は順調であった。年明け以降は、日照時間が平年より短い期間があり、収穫の山谷が大きく、果実の肥大が遅れた。病害虫は、コナジラミ類、アザミウマ類は前年と比較して発生が多く、ウイルス病による被害が発生した。灰色かび病、菌核病は、12月から1月にかけての低温、日照不足で発生が多かった。

花 き

盆出しシンテツポウユリは、4月に定植後、活着ならびに生育はおおむね順調であったが、5月から6月が少雨だった影響で、その後の生育が全体的にやや遅れた。7月中旬以降は高温により葉焼け等の生理障害や開花抑制が起こり、出荷できない事例が例年より多かった。

切り枝は、猛暑により夏場の株枯が多く、さらに8月29日に襲来した台風1号の影響により倒木や枝折れが発生した。

鉢物リンドウは、7月上旬までは全体的に順調な生育であったが、梅雨明け後から9月にかけて高温の影響により、一部農家で開花遅延や生理障害が発生した。

花壇苗は、春季の生産および出荷は順調であった。夏季の生産自体は少ないものの、梅雨明けから9月上旬にかけて例年より高い温度で推移したため、当該時期の生産では株枯が多発した。9月中旬から10月にかけて夜蛾類の被害も多かった。

果 樹

1月から2月中旬は、気温が高かったものの、2月下旬～3月は冷え込んだため、ナシ・モモ・スモモの開花期は平年並みであった。満開期であった3月下旬は降雨が続き、スモモでは灰星病やふくろみ病、ナシでは黒星病が発生した。

5月は、平年並みの日照となり、ブドウ、カキの着果は良好だった。

梅雨入りが平年に比べて遅く、梅雨期が短かったため、7月下旬以降に出荷のナシやモモは食味は良好であった。

梅雨明け以降は、高温の影響で、ブドウでは着色不良、モモの晩性品種やイチジクでは果実の成熟異常、ナシでは「にえ果」、カキでは日焼けが発生した。また、降雨が少なく、カキ、イチジクは、小玉傾向であった。

9月以降も気温が高い時期が長く続いたことから、カキは着色遅れが生じたものの、食味は良好であった。カキの重要病害虫であるカイガラムシ類や炭そ病の発生が、平年であれば少なくなる時期の10月中旬まで続いた。

(2) 令和6年度主な展示ほの概要

対象作物	課題名	市町村	目的・結果
大豆	種子処理殺菌剤による苗立ち不良対策	朝倉市 筑前町	播種直後の降雨による大豆の苗立ち不良対策として、種子処理殺菌剤「クルーザーMAXX」の効果を確認した。「クルーザーMAXX」は慣行の種子処理剤「キヒゲンR-2フロアブル」と比較し、収量は19%増加した。梅雨明け前の適期播種には、種子処理殺菌剤クルーザーMAXXの処理が有効であると考えられる。
大豆	部分浅耕—工程播種と暗渠の閉栓による乾燥対策	筑前町	「部分浅耕—工程播種」と暗渠の閉栓を組み合わせた場合の土壌水分を調べ、大豆の生育や収量に与える影響について検討した。部分浅耕・暗渠閉栓ほ場では、今年度の気象条件ではほ場が過湿になることはなく、大豆の生育にも悪影響はなかった。加えて、同ほ場では土壌水分を大豆の好適水分域内に長く保てたため、生育前半の乾燥害が軽減された。
イチゴ	鉢物専用肥料「プロミック」の利用が苗の生育に及ぼす影響	筑前町	近年の大雨等の異常気象による苗質低下の抑制を目的として、降雨に左右されず肥料分が溶出する肥料を用いて、苗の生育に対する効果を調査した。プロミック施用区では既存肥料施用区と比べ根量がわずかに増加したものの、クラウン径・葉幅については違いは見られなかった。
花壇用 苗物	太陽光パネルを利用した黄色LEDによるヤガ類防除の検証	朝倉市	環境への負荷や薬剤散布労力の軽減等を図ることを目的として、ハボタン苗ほ場で太陽光パネル電源を用いた黄色LEDの試験を実施した。出荷時に被害株は認められなかったが、秋冬期の日射量では必要な電力を確保することができず、LEDが点灯しない期間が発生したことから、太陽光パネルを利用した黄色LEDの効果は判然としなかった。
鉢物 リンドウ	シンクロトン光照射による花色変異系統の作出および選抜	朝倉市	鉢物リンドウにおいて人為突然変異育種による花色シンクロトン光を吸収線量10-20Gyで600株に照射した結果、2株の花色変異株が得られたが、いずれもキメラ変異であり、かつ育種目標に掲げる有用な花色ではなかったため選抜できなかった。
ぶどう	黒色系ぶどうにおける着色向上技術の検証	朝倉市	巨峰やベリーAなど黒色系ぶどうにおいて、新規成長調節剤「アブサップ液剤」及び、環状剥皮による着色向上について検討した。両処理共に、着色開始期に処理を行うことで高温下において着色が向上することを確認した。

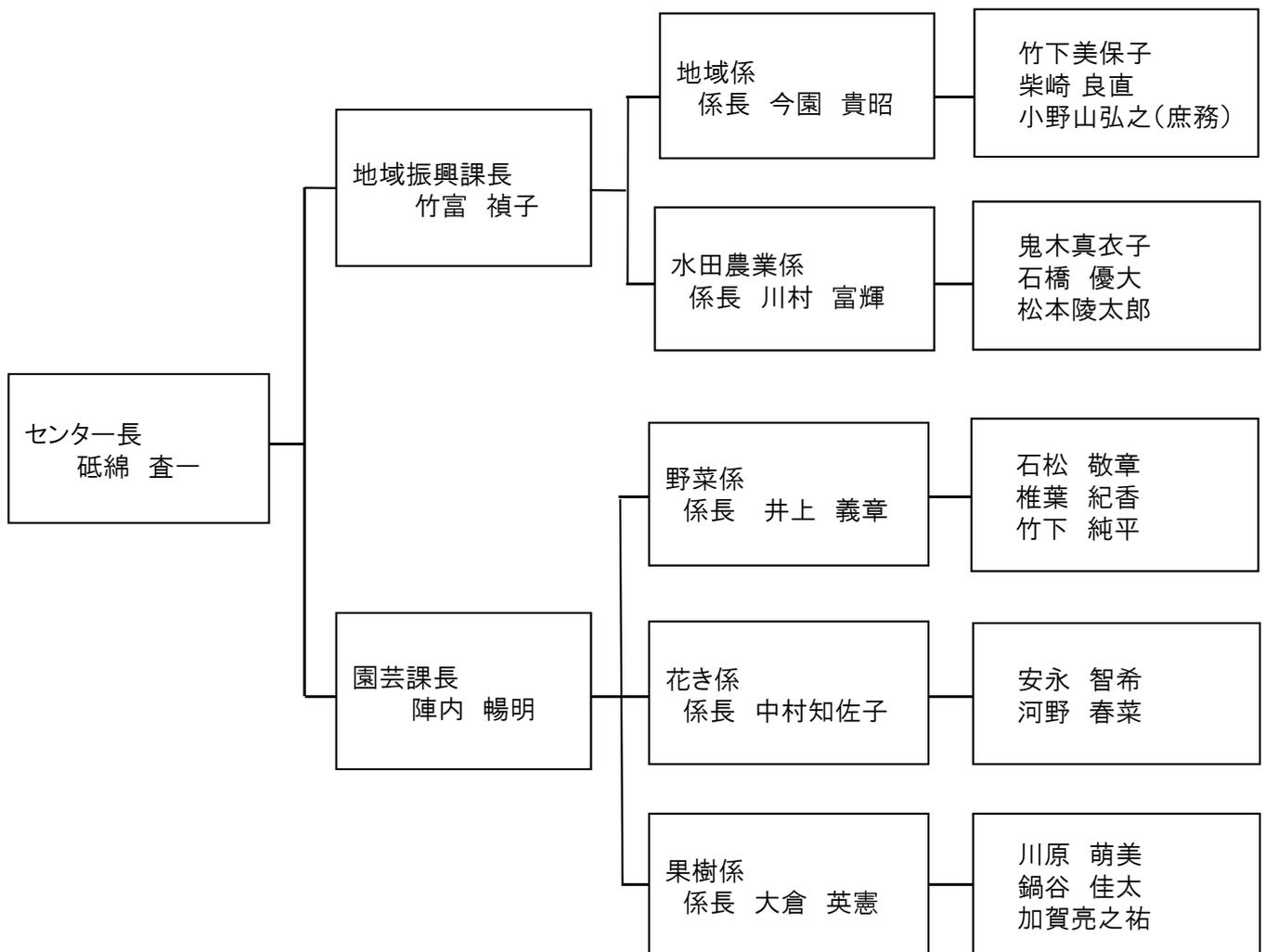
(3) 令和6年度普及指導センター活動情報一覧

令和6年度に当普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

No.	タイトル	担当係等	発行月
1	リンドウ新品種登録と出願申請、新たな育種手法の検討 ～リンドウ研究会のオリジナル品種育成の取り組み～	花き係	4月
2	営農組合で部分浅耕—工程播種の講習会 ～目指せ「ふくよかまる」300kg/10a!～	水田農業係	4月
3	「あさくら地域4Hクラブ」新体制始動！ ～令和6年度総会を開催～	水田農業係	5月
4	水稻・麦の良質種子生産を目指して ～稲・麦採種部会研修会を開催～	水田農業係	5月
5	朝倉地域での就農を目指して ～新規就農センター令和5年度開校式及び令和6年度開校式を開催～	地域係	6月
6	女性農村アドバイザー合同研修会を開催 ～朝倉・久留米地域の交流促進に向けて～	地域係	6月
7	カキ「秋王」着果安定のため「環状はく皮」の取組を拡大 ～「秋王」の管理講習会開催～	果樹係	6月
8	九州・沖縄地区青年農業者会議で朝倉4Hクラブ員が発表 ～朝倉で行う「援農」の取り組みを紹介～	野菜係	7月
9	大豆播種スタート！	水田農業係	7月
10	シンテッポウユリで肥料コスト低減の実証ほを設置	花き係	7月
11	朝倉地域農業経営発展研修会を開催 ～農業の経営継承について学ぶ～	地域係	7月
12	キュウリとナスの栽培基礎講座を開催	野菜係	8月
13	冬春トマト部会個別面談を開催 ～前年産の問題点と今年産の対策を整理する～	野菜係	8月
14	朝倉地域担い手・産地育成協議会担い手部会・普通作部会合同研修 ～2階建て営農システムと大豆先進地を視察～	水田農業係	9月
15	カキ「秋王」10周年記念大会	果樹係	9月
16	朝倉地域担い手・産地育成協議会果樹部会合同研修会を開催 ～果樹産地の維持・発展に向けて～	果樹係	9月

No.	タイトル	担当係等	発行月
17	太陽光パネル電源を用いたLED防蛾灯の実証を開始 ～花壇苗の環境負荷低減の取り組み～	花き係	10月
18	園児を対象に地元産の花を使った花育活動を実施	花き係	11月
19	農事組合法人 あさくら大角ファームが最優秀賞！ ～福岡の麦・大豆づくり生産者研修会で表彰式～	水田農業係	11月
20	令和6年度朝倉地域「新規就農者のつどい」を開催	地域係	11月
21	青年農業者による意見実績発表会を開催	野菜係	11月
22	女性農村アドバイザー研修会を開催 ～情報発信してみよう～	地域係	12月
23	なすICT研究会勉強会を開催	野菜係	12月
24	5年後の水田農業の課題についてグループ討議	水田農業係	12月
25	厳寒期乗り越え品質・収量向上へ ～冬春きゅうり部会現地検討会開催～	野菜係	12月
26	朝倉管内のアスパラガス農家が共励会にて複数人受賞！ ～福岡県アスパラガス生産振興共励会で表彰式～	野菜係	12月
27	先進農家視察研修を開催 ～従業員とつくる「働きやすい環境」とは～	地域係	12月
28	鉢花カーネーション「応援花」を県庁等で展示 ～朝倉地域の花のPR活動～	花き係	1月
29	あさくら地域4Hクラブの平田英輝氏が県青年農業者会議で受賞	地域係	1月
30	いちご部会若手生産者の視察研修会を開催 ～イチゴの光合成・転流について～	野菜係	2月
31	花き生産者を対象とした研修会を実施 ～生産者のニーズに合わせた4つのテーマを設定～	花き係	2月
32	J A 筑前あさくら果樹GAP研究会が県GAP認証を更新 ～GAP（農業生産工程管理）の取組で 安全な果樹農業を目指す～	果樹係	3月

(4) 普及指導センターの活動体制（令和6年度）



福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703216
登録年度 06	登録番号 0001



- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター

〒838-0026 福岡県朝倉市柿原1110-2

TEL : 0946-22-2551

FAX : 0946-23-1452

HP : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705004/>

E-mail : asakura-dlc@pref.fukuoka.lg.jp